

貴重なランの仲間 —カキランとトキソウ—

梅雨時は、毎日ぐずぐずした天気が続きます。長雨の後、湿地が小川のようにになるところに、オレンジ色の花が咲いています。ラン科の「カキラン」です。花の色が明るいオレンジ色で、熟れた柿のような色なので『柿蘭』という名前がつきました。花の大きさは1.5～2cmぐらい、長さ30～70cmぐらいの茎に、10数輪のランのような花をつけます。花の下部にある唇弁には、紅紫色の模様が目立ちます。中国、朝鮮や日本を原産とするランの仲間で、北海道から九州の日当たりのよい湿地や小川などのきれいな水のある場所に自生しています。陶史の森では6～7月にかけて花を咲かせます。

また、茎の先端に大きさ4～5cmほどの美しいピンク色の可憐な花が咲きます。「トキソウ」です。花の色が、国の特別天然記念物である“朱鷺”の翼の色に似ているため『朱鷺草』と名前がつきました。花の中央に紅紫色の唇弁があり、花びらのように外側に広がっている淡いピンク色の3枚のがく片がとてもきれいです。トキソウは湿地の消滅や盗掘により激減し、絶滅危惧種に指定されています。

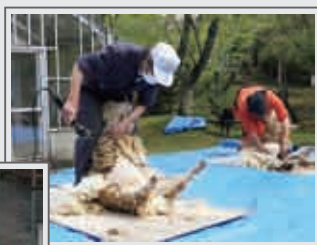
陶史の森にはカキランやトキソウなど貴重な野草が自生していますが、最近では盗掘などにより数が減っています。いつまでも自然を大切にしたいものです。



湿地に咲くカキラン



トキソウ



2時間程かけてモコモコの毛がみるみる刈られ、夏に向けて衣替えをしました。毛を刈られて一回りも二回りも小さくなったヒツジたちは、すっきりして気持ち良さそうに駆け回っていました。

ヒツジは毛を刈らずそのままにしておくと、暑い夏には熱中症になってしまいます。そこで陶史の森の7頭のヒツジたちの毛刈りを行いました。

涼しげな姿に大変身！

森の日記 / 4月19日(水)

教室のご案内

バードウォッチング (要申込 / 定員10人 / 雨天中止)

6月

6月25日(日) 午前9時～11時
梅雨期の野鳥を観察します。

7月

7月23日(日) 午前9時～11時
夏の野鳥を観察します。

陶史の森ネイチャーセンター横、林泉の池堤防に集合してください。

7月

草花のしおり作り教室
(要申込 / 定員10人)

7月8日(土) 午前9時～11時30分

陶史の森は自然環境保護地域です。動植物や石などは絶対に採らないでください。また、ペットの同伴はご遠慮ください。